川柳マガジンクラブ東京句会　2月

平成21年2月8日（日）　駒込学園にて

参加30名　出席26名、投句4名
伊藤三十六、五十嵐淳隆、山口千枝子、秋山和子、村田倫也、関　玉枝、加藤品子、藤井成子、河野桃葉、若山かん菜、井手ゆう子、左道　正、石崎流子、星野睦悟朗、水野絵扇、丸山芳夫、藤原栄子、土江裕美、石田きみ、渡辺まもる、棚瀬くんじ、高田以呂波、晴れ晴れ屋、甲野竜雄、植竹団扇、松橋帆波
欠席投句
白勢朔太郎、小倉利江、菊池順風、正木三路

※お詫び。今回作者コメントが録音できていませんでした。投句で頂いた部分とメモ書きから起こしましたが、全作品について掲載できなかったことをお詫びいたします。帆波

自由吟　句評会

いい国とほめて伸ばそう日本を　かん菜

・標語に聞こえるのだが、強烈な風刺なのかなとも思う。流子

・強いアイロニーを感じる。こういう作り方もいいと思う。団扇

不景気で買えぬ買わないから不況　利江

・定型を外れるが、「不景気で買えない　買えないから不況」と比較し、外在律、内在律について検証してみたい。帆波

自分には真似の出来ない人が好き　倫也

・自分よりできる人に好感を持っています。絵扇
・好きと言うより尊敬してしまいます。以呂波
・さらっと詠んでいるけれど面白い。睦悟朗
・私と逆なので面白い。千枝子

太朗さん政治のオモチャ捨てなさい　竜雄

・ブラックユーモアが過ぎているように思うが皆さんはどうか。桃葉

木枯らしに春一番の噂聞く　団扇

・春を待っているという印象を持ちました。和子
・季節感があって今の時期にはいいなと思います。品子

同じこと考えていた僕と妻　千枝子

・長く一緒にいると同じようなことを考えている。それが良い時と悪い時がある。そこが面白い。玉枝

ノーと言う準備で脚を組み換える　ゆう子

・仕事などで相手の態度を良く見た名と、昔を思い出した。睦悟朗　・読み方が上手だと思います。きみ
・下五に緊張感が出ていて良い。倫也
・ノーというタイミングを計っているのだろう。組んでいた足を下ろすという感じに読めて非常にいいと思う。淳隆
・反論する時の気構え、覚悟がよく出ている。まもる
・奥深い句。ディベートの場面では。反体制ということも感じる。三十六
・動きがあるので、こういう句が作れたらいいなと思う。裕美
・普通の所作なのだが、心の動きが見える。くんじ
・緊迫した心理を詠んでいる。流子
・決断を迫られたときに、足を組み替えてお腹に力を入れてノーと言う、そういう状況が見えていい。竜雄
・組み替えた人を見ているのでは。そう解釈しても面白い。団扇

買い替えをしたいテレビがよく映る　正

・我が家もそうなので実感。絵扇
・地上デジタルのことで買い替えなければならなくなるので、面白いと思います。かん菜
・笑えるし切ない。そういうあやが川柳ぽくていい。晴れ晴れ屋
・共感を持ちました。裕美　・よく解ります。玉枝
・地デジとか言っているが、今のがよく映るので惜しい気がしている。くんじ
・私も困っているので同感です。桃葉
・地デジに変わるのだが、本当に一斉に替わるのだろうか。そんな印象まで含んでいるのでは。竜雄

皺寄ってからが人生忙しい　淳隆

・年を経てからいろいろな集まりに誘われたりして、自分もそれなりに忙しいので。成子
・下五の表現が素晴らしい。以呂波
・私も忙しいので、実感が湧きます。栄子
・こういうものなのかなと思いました。芳夫
・子育てを終えた女性が幸せを詠んでいるのでは。桃葉
・同感です。品子
・いい句です。竜雄・いいですね。団扇

夢語る見つめる子どもの瞳の中で　流子

・赤ん坊が最初に見るのは母親の目。母の眼の中の自分を見つけて自分を確認する。中八が惜しい。団扇

作者　子どもは文句なしにかわいいです。しかし、貧困の中で懸命に生きている子どももいます。どんな境遇にあっても夢はもってもらいたい。大人が夢を持てない現状だから

裏方で記念写真に縁がない　帆波

・写真だけに「縁」を「ふち」と読まれてしまわないだろうか。淳隆　・人生を詠んでいる。三十六

・裏方の人を忘れないようにという思いにさせる。ゆう子

・こういう人の立場に共感しました。くんじ

作者　地元のイベントを手伝ったときの感想。

紅白の裏番組で老いて行く　三十六

・紅白が王道だとしたら、自分は日の当らない裏番組で、という人生の悲哀のようなものを感じる。流子

ジャンボくじ当れば多分うろたえる　睦悟朗

・普段思っていることを上手くまとめられていると思います。和子

・もし、ジャンボクジが沢山当ったら自分がお世話になっている色々な句会へ寄付したいと思っています。きみ

・句を作ることによってクジが当った夢を少しだけ見る、その切なさがいい。晴れ晴れ屋

責任者気の持ちようでケセラセラ　以呂波

作者　いろいろな不祥事などの謝罪を見ていると、責任者の人も気の持ちようなのかなと思う。

アメリカの惑星が待つ春嵐　品子

・惑星、春嵐の意味が判らないので教えてください。正

・句意が解りませんでした。玉枝

作者　惑星でなく衛星の方が良かったと思いました。

年金崩壊老後移民増加　絵扇

・帆波さんの評で、五・七・五でとありますが、八・九で読んではいけないのでしょうか。以呂波

・二段切れと読めばいいと思うが、ご意見をお聞きしたい。流子

・主張はよく判るが全部漢字菜だけに、五七五にまとめて欲しかった。竜雄

作者　もう少し上手くまとめたかったのだが。

功を焦るなと砥石の声がする　芳夫

・この擬人法の意味が判らないので教えてください。以呂波

・刃物を研ぐ時には緊張感が必要。砥石の声とはいい見付だと思う。倫也

・刃物を研ぐ時は急いではいけない。そのときの砥石の音。いいところを突いている。淳隆

・刃物を研ぎ澄ましてさぁこれからやるぞ、という時焦るなという砥石の声。情景描写が良い。まもる

・砥石の声という表現にハッとさせられた。正

・砥石の声という目の付け所が凄いと思います。品子

・刃物を研ぐことは何かに合間にできるものではない。

呼吸を整えなさいという砥石の声、そんなイメージが

湧く。帆波

空席があちこち目立つ不況風　栄子

作者　混んでいるだろうと思って入ったお店が空いていると、不況なのだなと思います。

又小言馬耳東風で日が暮れる　玉枝

・こういう風にできれば良いなと思う。芳夫

人救う咄嗟の嘘を一ツ吐く　きみ

・救うことはないのですが私も時々嘘をつきます。栄子

・どういう嘘かなと思った。面白い視点。睦悟朗

・咄嗟の嘘が「出る」ではなく「吐く」だと、あらかじめ用意していたような印象がある。芳夫

・吐くは川柳的で良いと思う。咄嗟の嘘というのが良い。流子

・見舞いに行くと相手はじっとこちらを見るので嘘が分かるのでは思いますが、それでも嘘をつきますね。千枝子

・嘘をついている顔は病人から見ると判る。辛いもの。三十六

・子供には嘘はいけないといって育てるが、人生ではそうでない場面もある。ゆう子

作者　「吐く」という表現は気になっていた。もっと良いものがあれば教えていただきたいのですが。

年取ると出不精になり老い加速　成子

・自分に置き換えて実感句です。絵扇

作者　一段と冬らしい寒さが押し寄せてくる今日この頃、ますます出不精になり身と心のせめぎあい一

致しません。そんなこの頃の気持ちを詠んでみました。

ありがとう短いような五十年　桃葉

・しみじみ身に沁みます。きみ　・省略が上手い。帆波

作者　結婚してからの年月を振り返ると、こういう思いになります。

モンゴルの奇跡も見せられる国技　まもる

・「見せられる」と「見せられた」のどちらがいいのかなと思った。成子

・タイムリーな話題でいいと思う。かん菜

誕生日祝う仲間の至福顔　裕美

作者　誕生日を祝っておられるお仲間のお顔を詠みました。

没の句は一兵卒のように消え　くんじ

・句会などで没になったときの気持ちに繋がるものがあって面白い。成子

・共感が持てる句なのだが、楽屋吟はダメだという人もいる、その辺り教えてください。

・没の句は何時も何処へ行くのだろうと気になる。自分の没の句に何時も詫びています。千枝子

・没の句は、後に直して出せばもっといい句になるので、いい貯金だと思いますよ。芳夫

・比喩が面白いと思った。正

・楽屋吟というより、一兵卒を詠んだ作品では。団扇

押し花をセピア色した辞書が待つ　朔太郎

・押し花を栞に使っているのかなと思った。いいと思う。かん菜

作者　書斎の片隅に黒褐色した広辞苑が置いてある。押し花用に使っていたので惜しくて捨てられないのである。さまざまの押し花を待っているかのような辞書を見ると、いとおしい感じさえする。電子

辞書の今日では考えられないことかも知れない。

空の缶持ち帰ってもやはりゴミ　和子

・捨てた缶の行くところは同じなのに、町会の方が役に立つのかなとか思ってしまう。そういう事を感じて面白いと思います。玉枝

作者　何処へ出かけてもゴミは持ち帰り。何処で捨てても同じゴミなのにと思う。

友達に松田聖子が一人いる　順風

・はおそらく奔放な人ではないか。面白い。倫也

・どういう喩えが判らなかった。かん菜

・松田聖子が動くと思われるかもしれないだ、この場合は松田聖子がピタリとくる。まもる

・個人名を出すのはドラマ性がある。例えば小和田雅子など。三十六

・下世話さから、作者の位置付けをが見える。少し切ないところがいい。晴れ晴れ屋

・松田聖子さんの全盛のころを知っているので、印象に残る句でした。裕美

・個人名がキーになっている。例えば「ぶりっ子」など。芳夫　・素敵だと思いました。桃葉

・松田聖子さんのキャラクターは今でも強い。竹下景子さんではピンと来ない。正

・松田聖子さんのキャラクターは強い。この名前を入れて詠まれた勇気に感服。帆波

作者　自由奔放に生き、しかも今もって憧れの的。羨ましい限りです。

年経ても母の温みを捨てきれず　三路

・自分がこの年になっても母親の温かさを感じて、幼い頃を思い出しました。和子

・こういう作品を自分も作ってみたい。成子

作者　最近年を経るに従い幼年時代のことが深く思い出されます。特に母への思慕が募りこんな句が口に出るようになりました。

風の駘蕩にして無一文　晴れ晴れ屋

・雰囲気がよく判ります。栄子

・川柳をやっていると知らない言葉を教えられます。ゆう子

・おおらかないい句だと思いますが、文語でしょうか、皆さんの意見をお聞きしたい。品子

作者　初めて川柳を作りました。春風駘蕩の中の切なさを表現してみたかった。

漢字の作品について。

何が何でも五七五でなければという訳ではないが、五七五は五音・一拍・七音・一拍・五音というリズムによって意味を伝える、読み手がそれによって意味を取込んでいく、という機能も持っている。全て漢字の作品は、助詞がないので、読む側に言葉を取り込み意味を理解する間を提供するために、この五七五の機能を使わないのは勿体無い。そのことで全て感じという切れの良さが生きるのではないでしょうか。（帆波）

楽屋吟について

句会だと、皆が同じ課題で考えるので、その苦心・苦労はその場だけで共有される事柄である。従って、句を作る行為を詠むことは、他者には判らないのだというのが一つの理由です。今回の作品は一兵卒が主役だと思

うので、確かに「没の句」という言葉は動くが、自由吟として、言葉の対比を鑑賞することに無理はないかと。
（帆波）

課題吟の結果

「年男・年女」丸山芳夫選

※前抜き作品は五句ございました。

「佳作」

かくしゃくと白寿に近い年男　玉枝

百八もかなりいそうな年男　正

ブラウスに袴つけて福は内　くんじ

年男イワシの頭ほどの価値　団扇

還暦の爺せがまれて鬼の役　団扇

十二進法律儀に守る年女　ゆう子

年女赤い靴履く夢を持つ　流子

豆撒いて年を蹴散らす年女　倫也

還暦をもう一回りする気です　正

荒っぽい祝福が待つ年男　順風

「秀作」

煩悩の数まで生きて福を呼ぶ　団扇

年女厚い手帳で気合入れ　品子

還暦にリストラもなく良き目覚め　成子

「特選」

年男けじめの年と身構える　倫也

軸男しょぼくれて還暦クラス会　芳夫

五分間吟「偽物」村田倫也選

「佳作」

そっくりさんのお陰で人気急浮上　団扇

百均の時計本物より光り　まもる

影武者の方が血圧ちと高目　帆波

本物はどれアメ横が混んでいる　三十六

イミテーション彼は知ってるこの指輪　和子

オレオレが犬の名聞かれ尻尾出す　玉枝

香りまでそっくり蘭に顔を寄せ　玉枝

母に詫びイミテーションの花供え　絵扇

六十路まだ師匠の影がつきまとう　芳夫

擬似恋愛まだ気付かないネット仲　ゆう子

「秀作」

本物がイミテーションに負けている　睦悟朗

偽物を着て本物の中に居る　帆波

あなたへの愛もイミテーションだった　正

「特選」

偽物と知って売ってる買っている　団扇

まとめ　松橋帆波